

# 新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会  
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

山と書物 ⑤

## 「現代の冒険」(上・下)

クリス・ボニントン著

著者は英国の高名な登山家。数々の遠征の中でも隊長として成功させた1970年のアンナプルナ南壁初登攀は、ヒマラヤ・壁の時代を切り開いたものである。さらに1975年には英国隊を率いて、1969年以来多くの隊を退けていた、難ルートであるエヴェレスト南西壁初登攀に成功している。

本書はこの著者による戦後30余年の間に山、極地、河、海、空、洞窟、宇宙といった様々な分野で行われた冒険の中から、今日の冒険の原点でもある、傑出した21の冒険のオムニバス形式での叙述である。その中でも著者自身が登山家であるためか、山に関するものが一番多い。

本書は冒険についての第一次的資料(ウア・テクスト)ではない。つまり冒険者自身が自己の冒険について記述し、報告したものである。従って古典とはなり得ないもので

に潜んでいる謎なのである。登山は冒険であるというところから反論があるかも知れない。しかしそれにもかかわらず登山とは畢竟するに探険と冒険に尽きる(本会五十嵐篤雄名誉会長)と思う。

(悠峰山の会 田中純夫)

## 七賢を偲ぶ会追悼文 ⑥

徳長さんを偲んで

長岡ハイキングクラブ

土田幸雄

先日、表丹沢の塔ノ岳に行ってきた。忙しくて、日帰り登山しかできないというところもあるかもしれないのに、数あるコースの中の大倉口からの尾根コースに妙に惹かれ、昨秋からこれで3回目である。

新緑も残り、そうかといって高山植物が咲いているわけでもないのに、数あるコースの中の大倉口からの尾根コースに妙に惹かれ、昨秋からこれで3回目である。

勤めの都合で東京に来てから越後の山に行くのは殆ど単独行が多く、しかもこのまま東京に住むわけでもないのだから、できるだけ始めての山、始めてのコースと心がけて歩いてきただけに、最初は心境

たのかもしれない。

塔ノ岳の三角点を撫で、木ノ又大日ノ頭に向かった表尾根の草付き台地で大休止、「そ  
うだ、ここは徳さんと一杯飲  
みながら昼食した場所だ」と  
思い出し、無性に徳長さんに  
会いたくなって、思わず「徳  
さん、いまだここにいます」と声  
を出し、涙がこみあげてきた。  
単身赴任した徳長さんと二  
人で最初に登ったのがこのコ  
ースで、7年前のことがつい

### 徳長先輩を偲んで

長岡ハイキングクラブ

渡 辺 靖 男

徳さんにはじめて会ったの  
は、昭和32年4月17日です。  
私達同級生3人が、山岳部へ  
入部した時です。

徳長さんの第一印象は大変  
真めな人だと感じました。

私達は山の1年生ですから、  
長岡近郊の東山から始めます。  
徳さんはリーダーで先に歩き、  
我々はハッパをかけられなが  
ら登ります。しかし小休止に  
なれば徳さんは草木について  
詳しく説明してくれたもので  
した。その頃すでに自然に対

昨日のように思われ、このコ  
ースに惹かれるのは心のどこ  
かに「徳長さんに会える」と  
いう気持ちからではないかと、  
はっと気がつき、兄弟のよう  
に交際してきた徳長さんが、  
心の中で大きく生き続けてい  
ることをしみじみ感じている。  
雲取山、大菩薩峠、男体山、  
奥秩父、奥多摩など思い出の  
山で、また徳長さんと語り合  
いたいと思っている。

し大変情熱を持っていたよう  
です。これはきっと子供の頃  
からではないかと思われま  
す。後年の自然保護に対する情熱  
もうなずけます。

二、三の徳さんらしい山行  
をお話しますと、  
① 山岳部、夏山合宿  
山岳部は毎夏恒例の北アル  
プスに1週間位の山行をおこ  
ないます。昭和32年8月は徳  
高連峰でした。  
徳さんは資料を詳細に調べ  
コース、食料、費用等計画立

案は立派なものでした。

私達ははじめての北アルプ  
スですから、うれしくてたま  
りません。登山中、小休止、  
大休止ともなれば例によって  
草を見れば草の話、木を見れ  
ば木の説明、頂に上れば山波  
を見て山々の話を懇切丁寧に  
教えてくれ、良く勉強してい  
る徳さんでした。

#### ② 浅草岳の荷上げ

今なら車で途中まで登れま  
すが、当時は大白川から荷を  
担いで登らねばなりません。  
徳さんは一番重い荷を一番長  
く担いだ人でした。

頂上で神事があり御神酒が  
できました。しかし我々は学生  
です。OBの許しがでたので  
すが、我々は徳さんの顔色を  
うかがいました。  
「今日は特別の日だからよ  
からう」

徳さんの言葉を聞いてから  
我々は安心して御神酒を飲ん  
だものです。真めばかりでな  
く、そんな一面もある人でし  
た。

#### ③ 柳市の池

東山連峰にある柳市の池は  
今は公園になり整備された池  
ですが、当時はただの池があ  
るのみでした。

昼の自由時間は、近くをそ  
ぞろ歩きをしながら、徳さん  
から草花の説明をしてもらい  
ました。低い山、高い山、山  
にかかわりのあるものは何ん  
でも良く知っているのに敬服  
したものです。

夜になれば、大好きなキャ  
ンプファイヤーです。徳さん  
は、どこから探してくるのか、  
沢山の薪を持ってきてドンド  
ン燃してゆきます。よくもま  
あ、こんなに燃したものと  
今さらながら驚いています。  
今では考えられない事でした。

#### ④ 県山協の自然保護

徳さんは新潟県山岳協会の  
自然保護副委員長を長くして  
ます。大切な先輩を亡くしまし  
た。故人のご冥福をお祈りいた  
します。

### 加茂山岳会創立60周年終えて

横 山 克 成

昭和4年、数名の若者で山  
陵会と名付けて発足、その後  
会員が多くなり加茂山岳会と  
改名する。会の歴史は粟ヶ岳  
と共にあゆみ続ける。その頃  
は小保沢より登る。10年代に  
なり加茂農林先生、生徒に協  
力して砥沢尾根の炭焼き道を  
整備し頂上まで登山道を開く。  
12年、会誌、山創刊号発行、  
ゲの高波吾策氏も協力して完

成、39年、県公園計画で砥沢ノ頭に30万円の予算で避難小屋建設の依頼有り、一致協力して完成させる。中央登山道も開通して、その後毎年数回、標識立てなど協力した。遭難事故も有り警察に協力、その後小屋も毎年修理して来た。54年、創立50周年、7月利尻山へ登山、11月記念式典、ライオンズからの標識を立てる。学校並びに市町村主催の粟ヶ岳登山にも多く協力、55周年には大山へ登る。山開き30回記念には各賞を出す。平成元年、創立60周年記念登山は、富士山と宮ノ浦岳並びに開聞岳と決める。そして粟ヶ岳頂上へ展望盤設置に決定。4月、粟ヶ岳ヒュッテが新築される話入る。8月15・16日、富士山登山へ、9月ヒュッテ建設が始まる、10月中旬完成。ヘリ空輸に展望盤の資材をお願いして10月末会員協力して完成。11月3日快晴の山じまいに除幕式をした。11月23日宮ノ浦岳へ出発、24日8Kmの道を歩き11時40分頂上へ、26日開聞岳へ登頂し帰宅する。12月10日記念式典、市長初め多くの来賓の出席の上に、外山楨一会長より会員に感謝状

が贈られた。横山事務局より60年のあゆみ、続いて北沢委員より記念登山と展望盤完成宴が続いた。

### 2月3月に登れる山 群馬 大峰山 (1254・8m)

長岡ハイキングクラブ

杉本 敏

水上ICで高速を降りる。ゲート出口の信号を右折して、高速道路の脇の国道R291を6Km程下がると、大峰山の看板がある。右折して月夜野カントリークラブの案内板が点々とする道路を登って行く。赤谷へと続いている道だが、月夜野町町営見晴荘の看板が出ている方向に右折する。1Km位進んで右手に見晴荘を見ながら直進する道を進む。看板を見ると大峰沼まで2・5Kmとなっている。200m程行くと右手に長谷池がある。貯水池になっている。分岐から500m程進むと道はT字路になる。直進は上牧方面となる。左折して大峰山方面に向かう訳だが、入口に鎖が横たわり夏場のゲートとなっている。ここには駐車場、トイレ、地図版があり、雪の無い時期の車の終点地となっ

と、右手に武尊岳2158m、前方に白毛門、朝日岳、そして高倉山を挟んで左に谷川岳が見えてくる。天候が良ければ写真撮るのに最良の場所である。左手は大峰山となり、頂上付近に建物や赤くなった塔がいくつか見える。林道を下るように進むと大峰山の北端に着く。大峰山と吾妻耶山分岐の所で、直進すれば吾妻耶山に行く。左に折れ登山道に入ると大峰山になる。大峰沼より20分である。登り口が杉林になっており、直ぐにカラ松、雑木の太木と好で横たわり、急斜面で大峰山山頂までの標高差200m水平距離700mは真上に登って行く感じである。雪が有るとルートが隠れ倒木に行く手遮られ歩きにくい登りである。立木のペンキ跡、道刈りして切り払われた木の枝の切り口を見つけては、ルートの正確さを確認して登る必要がある。ゆっくり登って1時間で稜線上部に出る。東京電力無線中継の電波塔が高く聳えている。ここから100mゆるく登ると、どうみても一番高いと、思える地点に出る。看板も案内板もなにも無い。雪の下なのか、場所が違うのかと思いつつ進むと、電波塔が有る。N T TやNHKやら全部で7つもの塔が立っている。200m位進んだ所に3m位の高さの展望台があるので登ってみる。小野子山、子持山、利根川を挟んでモミジの名所三峰山が見える。頂上部は平になり一見台地かと思える。武尊岳は三峰山の左手後方になる。谷川連峰は雑木がかぶり、思ったより綺麗に見える。それにしても、この展望台にも大峰山の看板は無いし、谷川連峰展望の山と宣伝されているのに展望図も無い。大峰沼までの案内板整備に比べ、ちょっと手抜きがはげしい。

南北に長い大峰山の間中部が鞍部になっており、西側の赤谷から車道が入っている。塔の工事用道路、管理用道路か？ スノーモービルが走った跡がある。真直ぐ南に下がると湯宿への下山路となる。古い地図には載っていないが、東側にも大峰沼からの登山路が有ることは解っていたので、山の上から大峰沼方面

を視野に入れ、確認して、約150mを一気に下ることにする。積雪量50cm、新雪20cmの下に古い堅い雪があり、表面の新雪を巻き込むように一緒に落ちて行く。クッションと一緒にズリ落ちていく気分、着地点は真下である。急斜面で勢いがあり、足元が滑

### 越後山岳第8号について

JAC越後支部の「越後山岳」第8号が前号から3年ぶりに刊行された。A5判、330頁、執筆者27名。散文と詩歌34編に写真、図版、挿絵などを載せている。

内容は豊かで濃い。越後と会津の山岳の息差しが弾み交う中に、海外の山や峠の記事が異国調を添え、随想、詩歌、挿絵が幅広い味わいを盛る。特別寄稿2編。小島六郎氏「山談、余談」は登山への段級制導入を巡る温古知新論。藤島嶺樹氏「命杖」は昔日の父子山行談に心が温まる。佐藤一栄氏、上村幹雄氏の「玄さん」追悼は感慨無量。

るので最初にコース選択しておかないと、立木に衝突か、10mくらいジャンプする。下雪が堅いのでできるコース選択である。植林地を抜けて登山路と合流。大降沼まで25分。車置き場まで25分。あとは無事故を祈って帰路に就く。

### 筑木力

雄氏「湯ノ平温泉今昔」、上野寿一氏「長岡の峠」、久保田全氏「大平最ノト」、花井馨氏「万葉集の越後歌の考察」、山田勲氏「越後百山」、筑木力「スポーツにおける冒險の自由と責任」、田中純夫氏「絶頂の超越についての一試論」と力作が揃う。森谷周野氏「飯豊に逝った三教師」は凶らずも遺稿となった。斎藤喜一氏「遡行中の事故と体験的救出の「方法」は、沢登りに中を友を失った体験から得た貴重な考案である。

紀行・記録11編。加藤明文、遠藤家之進正和、中川久、込山孝、平田静一郎の各氏による峠と山の紀行がそれぞれ楽

しい。金山淳二氏「私の歩いた山」は開拓登攀に燃えた青春の記念碑。平田静一郎氏「私の平ヶ岳」、山田一男氏「五十嵐川源流の山矢管岳」、筑木力「会津朝日岳から丸山岳」は、何れも愛峰への思い入れを躍動的に描く。山崎幸和氏「弥彦山頂から見える越後の山々(展望図)」は驚異の作、作成への執念に脱帽する。小林兼一郎氏「熱帯の葎山からヒマラヤのジャイアントまで」は、新大山の会の海外遠征記録の近年の集約。随想5編。佐藤一栄、室賀輝男、森沢堅次、斎藤喜一の各氏の佳編が光る。詩・和歌4編。山田智子氏の絶唱と江田宗友氏の諧謔の協奏曲が妙。翻訳1編。エリックシプトン「エベレスト1935年の偵

### お知らせ

- ◎賛助会員募集中  
五十嵐まで☎0254-22-2928
- ◎県スポーツ振興基金  
1口5,000円 募集中  
協会口座  
第四銀行長岡駅東支店  
普通1116600
- ◎新協会旗のミニサイズ(43×63cm)を個人用として4,000円で頒布します。希望者は杉本まで☎0258-36-9533  
先着順になります。
- ◎山岳保険の問い合わせ  
杉本まで☎0258-36-9533
- ◎指導員の資格問い合わせ  
田中まで☎0258-34-5595
- ◎国体県予選会問い合わせ  
高橋まで☎025-259-5434  
山田まで☎025-244-7959
- ◎遭難対策の問い合わせ  
山田まで☎025-267-8701
- ◎自然保護の問い合わせ  
堀井まで☎0258-32-1621
- ◎個人でのニュース購読希望  
杉本まで☎0258-36-9533

### 冬山登山技術

#### 研修会案内

主催 新潟県山岳協会  
主管 長岡ハイキングクラブ  
日時 平成2年2月17日(土)18日(日)  
会場 風谷山(521m)  
長岡市鋸山の前山  
集合・宿泊 17日19時集合  
栖吉集落センター 長岡市栖吉町 栖吉保育所横

※バス 長岡駅東口6番線 栖吉中央下車  
※雪の為駐車場が少ないです

日程 17日  
19時~20時 情報交換  
20時~21時30分 懇親会  
18日 7時 出発 技術研修、15時 終り 解散  
参加費 1500円(会場費他  
装備 食料、シュラフ、ピッケル、ザイル、ワカン、シュリンゲ、カラビナ等冬山技術を行うに必要な用具一式  
問合わせ 田中栄弘まで  
☎0258-34-5595  
申込 2月14日迄ハガキにて、所属団体名、氏名、年令、住所、電話番号を記入して左記宛